

第9回（2016年）「昭和女子大学女性文化研究奨励賞（坂東眞理子基金）」選考報告

昭和女子大学女性文化研究奨励賞選考委員会

選考委員会より、本書の概要と賞贈呈の理由について報告いたします。

「昭和女子大学女性文化研究奨励賞」は、卒業生を含む若手の昭和女子大学関係者の著作に対し贈呈するものである。

第9回研究奨励賞は、2016年に刊行された単行本4点が選考対象となった。第1回目の研究奨励賞選考委員会は2017年2月10日に開催し、選考対象4点について検討した。また第2回目の選考委員会は3月10日に開催し、瀬戸山聡子氏の『現代日本女性の中年期危機についての研究－危機に対するソーシャル・サポートと容姿を維持向上する努力の効果－』（風間書房 2016年2月発行）が最終候補となり、本書に「研究奨励賞」を贈呈することが決定された。

瀬戸山聡子氏は、成蹊大学法学部卒業後、企業での社会人生活を経て、昭和女子大学大学院生活機構研究科にて修士号、博士号（学術）の学位を取得された。現在は、ピースマインド・イーブ株式会社コンサルティング本部 EAP スーパーバイザーとして、従業員支援プログラムサービス等を含む、心理臨床及びカウンセラー育成に携わっていらっしゃる傍ら、明星大学・聖徳大学・東京南看護専門学校にて兼任講師として教育に携わっておられる。

本書は2013年3月に本学大学院生活機構研究科に提出された博士論文を基に執筆され、2015年度昭和女子大学博士論文出版助成を受けて刊行されたものである。本書は7章から構成され、第1章の序論に続き、第2章から第6章までが調査研究、第7章が「総括と展望」で、全297頁である。

本書が選ばれた理由の第1点目は、単独の著作であること、第2点目は、日本の性別役割分業のあり方や、「男らしさ・女らしさ」規範の内在化にも関連する女性と男性の異なる発達課題及び中年期危機に着目した点は、ジェンダー平等と男女共同参画社会形成に資する研究内容であり、本賞の趣旨に合致した内容であること、第3点目は乳幼児期から青年期の研究が中心である生涯発達心理学の中で、重要性が指摘されつつも実証的研究が乏しい中年期女性を対象として、丹念に研究成果を導き出していると判断されたことによる。

瀬戸山氏は、10年以上に渡り、現代日本女性の発達課題と中年期危機のテーマに取り組み、臨床心理士として、成人を対象とした心理臨床に携わる中で本研究をまとめている。瀬戸山氏は、中年期危機に対するサポート源として、友人やカウンセラー等の家族以外の他者を考慮することの重要性と、従来の地縁・血縁を超えたつながりは女性特有のものであることを指摘している。さらに本書は、知覚されたソーシャル・サポートと容姿を維持向上する努力が、女性の中年期危機の予防や軽減効果に影響を及ぼしていることについて、モデルの構築を試みている点が注目に値する。

本書を女性文化研究奨励賞に決定するにあたり、選考委員会が最も評価した点は、瀬戸山氏が、生涯発達の見点から、「関係性」を重要な要素として機能させていく中年期女性に対するソーシャル・サポートの活用は、中年期危機への対応のみならず、超高齢社会で精神的な健康を保ちながら生きるための重要な要因でもあることを明らかにしたことにある。このことを、中年期の時期区分を丁寧に検討した上で、家族状況の違いによって異なるモデルを構築し、質問紙調査を中心としながら面接調査も組み合わせて、多様な側面から丁寧かつ詳細に実証的に検討した点に本研究の独自性が認められ、優れた点であるといえる。

最後に、本研究ならびに瀬戸山氏に期待することとして、次の2点を挙げたい。

第1点目は、瀬戸山氏自身も研究課題として挙げている家族状況別のモデル構築について、さらなるデータの積み重ねによる対象者の群分けと理論仮説の再検討により研究を深めていただきたい。第2点目は、それに関連して、家族状況のみならず、ライフスタイルを規定する要因として考えられる、就労状況、経済状況、地域等との関連性についても視野に入れて研究を発展させていただけたらということである。

選考委員会として、今後ますますの研究のご発展を祈念いたします。